



認知症対応型共同生活介護
グループホームみふね庵
ホーム長 黒尾丸 優里さん

武雄市長
小松 政

もしも大切な人が認知症と診断されたら…

キャラバン・メイト(※)として認知症サポーター養成講座などでご協力いただいている「グループホームみふね庵」の黒尾丸さん。今回、市長からのインタビュー形式で「認知症との向き合い方」について話を伺いました。

■市長のことは
黒尾丸さんのことは

■認知症とはどういう病気でしょうか。

一般的には、脳の障害で脳がダメージを受けたことで記憶障害とか判断力や思考力の低下、日常生活を行う上で色々な支障を来すことが認知症の症状とされています。

認知症の方は、「伝えたいことがあっても思うように伝えきれない」というところで困惑し辛い思いをされているのではないかと思います。

■認知症の方は自覚症状はあるのでしょうか。

私が関わった方で「最近、すごく物忘れが多いのよね」と言われる方がいらつしやいました。認知症の症状が進むにつれて、忘れていること自体を理解できないということもありえると思います。

■グループホームとはどういう施設ですか。

認知症の方が、家庭的な雰囲気の中

で、少人数で生活をし、認知症の専門スタッフが介助することにより、認知症の進行を和らげる施設だと思っています。

■認知症の方の介助をするうえで、心がけていることはありますか。

私が一番心がけているのは、認知症の方への「愛情の伝え方」です。

「私はあなたのことを一番理解している、大好きで、味方なんですよ」ということを伝えるんです。それは、言葉ではなく、声のトーンや表情、態度などで伝えるというのを心がけています。

■いつも笑顔で対応するって大変だと思えますがどうですか。

私も完璧な人間ではないので、心と体が健康でない時もあります。悩み事があったり、心配事があったり…。「いつも笑顔」というと厳しいところがあります。

平成16年にこの施設がオープンしたのですが、当時は毎日悩みながら対応していました。そんな時、恩師の



方から「最優秀主演女優賞を獲得するような演技派になりなさい」と言われたことで、少し楽になったことを覚えていています。

■認知症の方と関わる中での事例があれば教えてください。

認知症の方が感じている世界と私たちが感じる世界が全く違うと思うことがあります。

ある時、玄関のチューリップの花をちぎって「あんた食べんしゃい」と渡されました。おそらくですが、認知症の方にはそれが「花」ではなく「イチゴ」か何かに見えたのではないのでしょうか。

■そういった時の対応はどうするんですか？

私たちは「なんばしよつとね。これは花よ。大切な花をちぎって！」と

は絶対言いません。認知症の方からすると良かれと思つてとつた行動を否定されると、悲しんでしまうはず

です。私たちは、認知症の方が感じている世界とのギャップをしっかりと受け止めて対応する必要があると思います。

■他に事例はありますか。

例えば、物を盗られたと疑われる時があります。そういった時は、強く反論せず、「一緒に探しましょう」とお声かけします。実際、大事な物だと思われているのでタンスの奥などに置いてあることが多いです。一緒に探して見つけ出す。できれば本人が発見するのが一番いいと言われています。介護者が見つけると「隠していた」と疑われることがあるからです。

■では、自分の家族が認知症になった時、どう接したらいいのでしょうか。

どうしても不可解な行動をとられるので、静止したり怒ったり、小馬鹿にしたりすることがあるかもしれません。でも、認知症というのは脳の障害によって起きているものであるというのをしっかりと認識することが大事です。

■頭張り過ぎると介護者の方が疲れ果ててしまうと聞きますがどうですか。



●すんなり介助が進んでいる時はいいのですが、非難的が介護者になったときに非常に辛い時があります。なんでもひとりで抱え込んで、完璧にやろうとするとストレスが溜まります。介護者の心と体の健康が一番大事。その為には、リフレッシュすることが大事です。

■夫婦2人暮らしなので、自由に出かけられないと聞くこともあります。そういう方はどうすればいいのでしょうか。

●やはり、様々な支援制度を利用して少しでも負担を減らすことを考えるといいと思います。介護者が倒れたら元も子もありません。大事な方を守るためにも介護者の方の休養は必要です。

■家族の関わりについてどうお考えですか。

●施設入所者のご家族には月に1回は面談に来ていただいています。やはり家族とのつながりは大事ですね。あるご家族は、最初は在宅介護をさ

れていました。しかし、その認知症の方は夜に徘徊されて、色々な場所でお漏らしをされており、息子さん夫婦は疲れ果てていました。このままでは難しいと泣く泣く入所を決定されました。そんな折、施設の夏祭りで認知症の方が盆踊りを綺麗に踊られました。それを見たお嫁さんが「義母は踊りが好きだと言っていたけど、初めて見ました」と泣きながら話されました。私は本当によかったなあと思いました。

■現在、キャラバン・メイト(※)として「認知症サポーター養成講座」などの活動をしていただいています。そういった取り組みについてどうお考えですか。

●認知症の症状や、認知症の方が、日常生活の中で戸惑いや不安をもって居る事を一人でも多くの方に理解して欲しいです。また、介護者の方の苦勞なども知って欲しいですね。チューリップの話も認知症の方に

インタビューのポイント (3つの大事なこと)

- 認知症の方が感じている世界と私たちが感じる世界が全く違う。そのギャップを受け止めること。
- 認知症は「脳の病気」と認識すること。
- 認知症の介護はひとりで抱え込まず、心と体をリフレッシュすること。

※キャラバン・メイトとは… 認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を務めていただく方